

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000724		
法人名	株式会社 プラティア		
事業所名	グループホーム プラティア花園		
サービス種別	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府東大阪市稲葉2丁目1番13号		
自己評価作成日	平成29年8月10日	評価結果市町村受理日	平成30年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成29年8月21日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の運営理念である、『ご利用者様本位』とは何かをスタッフ全員で考え、日々実行できるように取り組んでいます。法人では、ご利用者様が望まれることを実現できるように『寄り添い介護』を実施しています。実施までに何度もお話を聴き検討を繰り返し計画されます。そして、1日をお一人のご利用者様とじっくりお付き合いをさせていただいています。個別レクリエーションなど、レクリエーションの充実を目指しており、毎日何か少しでも楽しんでいただける時間の提供を心がけています。ホームで最期まで、できる限り口からの食事、できる限り入浴、できる限りトイレでの排泄を促すことで、尊厳と自立をいつまでも持ち続けていただけるように、スタッフ全員で取り組んでいます。

### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中にあるグループホームは、各ユニットとも自然光がさしこみ、明るく清潔感が感じられる。壁面に利用者と共に制作した季節感のある作品を飾り、ソファでもくつろげる居心地の良い環境である。運営推進会議に複数の家族の参加があり、日常的にも家族の訪問が多く、家族との良好な関係づくりに努めている。年間計画に沿った研修やクリップライン研修の導入、定期的な会議の開催、人事考課制度等、職員の質向上に取り組んでいる。利用者の自立度も高く、日常的な散歩や買い物等外出の機会も多い。寄り添い介護による、懐かしい場所への訪問や外食など個別の外出の機会もある。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をスタッフがいつも目にするところに掲げたり、会議等の場において唱和することで、常に行動規範として意識付け、実践できるよう努めている。	法人共通の運営理念を事業所の理念として、各ユニットのリビングに掲示し、職員・利用者、家族等来訪者を含め共有を図っている。月に1回開催する全体会議で唱和し、運営理念に沿ったケアが行われているかの振り返りを行ない、理念の実践に努めている。理念を映像化して配信するクリップラインを活用して、職員が具体的に理解し実践に繋げる取り組みも行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される運動会や流しそうめん大会等の行事に積極的に参加するように心がけている。	日常的には、事業所周辺の散歩や買物、「寄り添い介護」を活用した外出の機会に地域に出かけている。自治会長とは、運営推進会議への参加等を通して連携があり、運動会・流しそうめん大会等の自治会の行事にも参加している。事業所の秋祭りの際は、近隣住民を招待して交流の機会を持っている。フラダンスなど、ボランティアの来訪もある。地域のドラッグストアで、他のグループホームとも協力して介護相談を実施し、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について話をさせていただく機会がある。毎月1回地域の薬局にて、他のグループホームと協力して介護相談会『ほっこりサロン』を開催している。		

グループホームプラティア花園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況の報告をする中で、困難事例や事故報告等も行いご意見をいただいている。いただいた意見や助言をホーム会議等で報告してサービス向上に活かしている。	自治会長・利用者・家族・地域包括支援センター職員・知見者（他事業所管理者）が参加して、2ヶ月に1回定期的に開催している。複数名の家族参加や利用者の参加がある。会議では、利用者の状況・事業所の活動や取り組み・事故・行事予定等を報告している。家族からの意見、地域包括支援センター職員や自治会長からの地域の情報、知見者からの他事業所での取り組み等を、サービスや運営の参考としている。会議録は玄関に設置して公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営について、市の担当者と連携して報告や相談を行っている。介護相談員の方が月1回して下さり、意見交換を行っている。	地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加があり、また、市から介護相談員の月1回来所があり、利用者の状況や事業所の取り組みを伝えている。法人役員が「東大阪市介護保険事業者連絡協議会」の居宅系地域密着型サービス事業者部会の座長を務めている。申請や更新等で不明な点があれば、市の担当者に質問し助言や指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催するなど、身体拘束は行わないことを理解している。玄関は建物の構造上および防犯上施錠をさせていただいている。ユニット間は自由に行き来していただいています。	契約書に「身体不拘束」を明示し、契約時に家族にも法人の方針を説明し、身体拘束を行わないケアを実践している。年間計画に位置づけ「身体拘束について」の研修を実施している。研修は全体会議の中で全員参加を基本とし、欠席者にも資料配布してレポート提出を義務付け、周知徹底を図っている。言葉の拘束についても研修に盛り込むと共に、「プラティアの禁止事項」に行動制限をしない、敬語の使用を明示し、職員への意識付けを行っている。玄関は事故防止のために施錠しているが、利用者に外出の意向があれば、職員が対応している。各フロアは広く開放的であり、また、階段・エレベーターの使用は自由で1階・2階・3階を行き来でき、閉塞感を感じないように配慮している。	

グループホームプラティア花園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7			○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアが行われていないか、虐待に繋がるようなケアになっていないか、勉強会等を通して、職員同士で声掛けを行い、いつも気にするようにしている。		
8			○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の利用につなげられるようサポートを行っている。また、利用開始後も後見人の方と一緒に職員も勉強させていただいている。		
9			○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をいただいて説明させていただいています。不安に思う点や疑問点等を各項目ごとにたずねるようにしています。また、よくある質問を提示して捕捉説明させていただいています。		
10	(6)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にご利用様のお話を傾聴するようしており、場合によってはご家族様と共に話し合う場を設けている。ご家族様来訪時には職員は積極的に声掛けさせていただいている。運営推進会議の開催案内をすべての家族様にもしています。	家族の面会が多く、面会時に利用者の近況を報告し、また、2ヶ月に1回、生活や身体状況・担当職員からのコメントを記載した通信やブログでも様子を伝え、家族から意見や要望が出やすいように努めている。面会時には、主にホーム長・計画作成者が、不在時は職員が対応し、話しやすい関係づくりに努めている。把握した意見・要望は、介護日誌の「申し送り事項欄」に記入し、申し送時に共有している。運営推進会議に複数の家族・利用者の参加があり、また、介護相談員の受け入れを行い、利用者・家族が外部者に意見を表す機会も設けている。意見箱も設置している。	

グループホームプラティア花園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にコミュニケーションを取るようになっている。年に数回の個人面談を実施している。	月に1回、全体会議・フロア会議を開催し、職員が意見・提案を出し合って話し合う機会を設け、ホーム長・エリアマネージャーも参加し把握している。会議は全員参加を基本とし、また、会議前にフロア会議議案を提出し、効果的に会議できるように努めている。人事考課制度を導入し、年3回エリアマネージャーが個別面談を行い、職員の意見・提案を個別に聞く機会も設けている。管理者・エリアマネージャーが把握した意見は、内容に応じて経営者会議・管理者会議で法人代表に伝える仕組みがある。職員の異動は、利用者との馴染みの関係を大切に考え必要最小限にとどめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や職能要件書を用いて職員が個々に自己評価を行い自らを見つめなおす機会にしてもらい、同時に上司はしっかりと努力や実績に対して評価をして個々に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時から定期的に面談を行い状況確認を行い、新人研修を受けている。3年後にも現任者研修を受けることになっている。外部研修の案内を掲示して、職員に受講を促している。ICTを使った研修が始まったところです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣グループホームの運営推進会議に参加したり、GH事業者部会に参加したりして、自ホームの足りない部分の改善に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談からご本人様の思いをしっかりと受け止められるようにしている。入居までにできる限りお会いできる機会を多く持つようにして、入居の不安軽減に努めています。また、入居時には、しっかりと寄り添い、早期に信頼関係が気づけるようにしています。		

グループホームプラティア花園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの介護で苦勞されてきたことをしっかりと受け止めることができるように、入居前面談でしっかりとうかがい、サービス利用開始時には安心していただけるように心がけている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談や契約時にご家族様の必要とされていることに耳を傾け、ご本人様の様子を注意深く観察することで、必要とされるサービスができる体制を提案して、スムーズに利用できるようにしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の気持ちを大切にしながら、共に生きる姿勢、助け合う気持ちをお互いが普段の生活の中で何気ないところで感じることができます。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	在宅介護等で失われそうになっている絆があれば、再構築ができるように職員が間に入り対応するようにしている。ホームに積極的に訪問していただけるようお願いし、一緒になって支援していけるよう、その方法についても確認を取っています。		
20	(8)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て外出されています。また、寄り添い介護で、ご本人様の希望される場所へ訪れたりされています。	フェイスシート・利用者調査票で入居時の情報収集を行い、「生活歴」から馴染みの人や場所等についての把握に努めている。家族や来訪者が気持ちよく過ごせるように配慮し、馴染みの人との関係継続を支援している。馴染みの場所については、日常的にはスーパーや馴染みの店舗の利用の継続を支援し、『寄り添い介護』を活用し馴染みの場所への個人的な外出も支援している。	

グループホームプラティア花園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様お一人おひとりの思いを理解して、どのような関わり方がいいのかを職員間でも話し合っている。ご利用者様同士が交流できる機会を設けたり、お互いにできることを一緒にしたり助け合ったりすることができるよう雰囲気作りや機会を提供している。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたあとも継続性を大切にして、入居されていたときと同じように相談できるようにしています。必要に応じて、次の事業所等との連携を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で発せられる言葉や表情、行動等を通して、個人記録に記録することで共有し、ご本人様が本当に望まれていることは何なのかを考えるようにしている。ご家族様にも都度確認を行っている。	入居時に把握した利用者・家族の意向は「利用者調査票」に記録し、介護計画に反映している。介護計画の見直し時にも意向を確認し、介護計画に反映している。思いや意向が表出できる利用者については、日々のコミュニケーションで把握に努め、「申し送り事項」で共有し、「寄り添い介護」等を活用し個別に対応している。思いや意向の把握が困難な場合は、利用者の表情・反応から思いを汲み取るように努め、また、家族からの情報を参考にして、本人の立場に立って支援している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に可能な限りご本人様・ご家族様、関係者の方から情報を得るようにしています。入居後も日々の生活や会話の中から生活歴を知るようにしています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表、水分・食事摂取チェック表、排泄チェック表、申し送り記録で個人個人の日々の状態をしっかりと確認している。また、できること、できないこと、できにくくなっていることの把握に努め、多面的な視点から力を発揮していただけるようにしている。		

グループホームプラティア花園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的に、または現状に変化があった時に、カンファレンスを開催している。しかし、ケア統一を図る介護計画の作成が滞りがちなため、その重要性の意識付けが必要である。</p>	<p>フェイスシート・利用者調査票で把握した情報をもとに、法人共通のサービス計画書のアセスメント表に記載し、介護計画を作成し個別具体的な支援につなげている。サービス計画書に明示した項目に応じて3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月に1回計画の見直しを行っている。6ヶ月毎の見直しの際には、事前に計画作成担当者が利用者の状態や状況を情報収集し、フロア会議の中でサービス担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>現在、書式の見直しを行っている。介護計画全体のモニタリングを実施する書式、及び、介護計画にもとづいたサービス実施が明確になる介護記録の工夫が望まれる。また、サービス担当者会議の議事録に、利用者・家族の意向や主治医・看護師等関係者の意見を記載することが望まれる。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>プランに沿った実践を行う中で、変化や気づきを記録することで、共有するように努めている。しかし、必要な情報が的確に伝わっていなかったり、評価がしっかりできておらず、活かせないこともある。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>訪問理美容、訪問歯科、訪問眼科、訪問マッサージ等必要に応じて対応できるように協力をお願いしている。グループホーム内の浴室で入浴困難な際には、併設しているデイサービスの入浴設備を利用することもある。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域で開催される行事に参加して、地域の方と一緒に楽しんだり、近くのスーパーやコンビニに買い物に出ています。図書館も近くにあり利用させていただいている。</p>		

グループホームプラティア花園

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時にかかりつけ医の確認をしています。ご本人様やご家族様が信頼され希望されるかかりつけ医を大切に、選んでいただけるようにしています。かかりつけ医と連携していつでも適切な医療を受けることができるようにしています。管理者や職員は、ご家族様での通院が困難な際には同行させていただいて、連携が取れるように配慮しています。</p>	<p>契約時に確認し、利用者・家族の意向に沿った受診支援を行っている。協力医療機関の内科・歯科・眼科の往診、訪問看護、訪問マッサージを受けられる体制がある。通院は、家族同行を基本としているが、状況に応じて臨機応変に職員が同行している。家族が受診同行する時には、受診に必要な情報を書面で提供し、受診結果は家族から報告を受けている。医療連携体制を整備し、訪問看護師が健康管理日誌に記録し、往診医が報告を受けて往診し、往診結果は立ち会った職員が個人記録の申し送り事項欄に記録し共有している。</p>	<p>主治医・看護師・職員の情報共有が有効に行える、「往診記録」「受診記録」の工夫が望まれる。</p>
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関より看護師が週2回訪問していただいています。健康管理日誌を使って状態をお互いに共有して指示やアドバイスを受けています。定期以外にも連絡を密に行って早期に受診対応等ができるようにしています。</p>	/	/
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には介護サマリーを提供する等ホームでの生活が継続できるよう情報提供しています。入院中は、できるだけ面会をして、ご本人様の状態把握に努めています。長期の入院は、認知症の症状を悪化させることがあるので、できる限り早い段階での退院ができないか相談するようにしています。</p>	/	/

グループホームプラティア花園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針の説明をすることで、今後起こる可能性のある不安を少しでも軽減できるようにしています。ホームでできること、できないことを含めて説明させていただき、できる限りご本人様・ご家族様の希望・要望に沿えるよう医療機関等と連携しながら、一緒に穏やかな週末を迎えられるように支援しています。	近年、看取りの事例はない。契約時に、「医療指針説明書」で重度化・終末期に向けた方針を説明し、指針についての同意と、契約時点での意向確認を行っている。終末期を迎えた段階で、主治医から家族に説明を行い、事業所が再度の指針説明と意向確認を行い、家族の意向に沿った支援を行う仕組みがあり、希望があれば看取りを行なう準備がある。「ターミナルケア」の研修は毎年継続して実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成するとともに、急変時の対応について、一覧表を作成して掲示している。ホーム内応急手当等の研修は実施できていない。外部の講習会参加を職員に促している。	/	/
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防避難訓練を行っている。ただ、地震や水害等の訓練が1度も行えておらず、早期に避難訓練・行動訓練を行う必要がある。また地域に協力をお願いしていかないといけない。	毎年2回、併設のデイサービスと合同で消防避難訓練を実施している。28年6月は消防署立ち合いで通報・消火・避難の総合訓練を、利用者参加で実施し、グループホームでは、夜間想定訓練を重点的に行っている。28年12月は通報・避難・誘導の自主消防訓練を、昼間想定で実施している。訓練に参加できない職員も含めて、「非常災害時を想定する」の研修で、非常災害時の対応について学ぶ機会を持っている。避難経路・消火器の設置場所を含め、資料として整備し周知を図っている。	運営推進会議の機会を生きし、非常災害時の地域との協力関係を構築する取り組みが望まれる。また、備蓄の担当者を決め、リストを作成し、水・食料・備品など必要物品の備蓄と管理を行うことが望まれる。

グループホームプラティア花園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様お一人おひとりの今の姿をありのまま受け止めることで、人格を尊重し、人生の大先輩として尊敬をすることで、真心を込めて支援するように努めています。	運営方針に「尊厳を保つ」を掲げ、周知と実践に取り組んでいる。年間研修計画に位置付け、「プライバシー保護」「接遇」の研修を継続している。「プラティア禁止事項」に、「行動制限しない」「敬語を使う」を明示し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。個人記録類はスタッフルームの鍵のかかるロッカーに保管し、掲示やブログでの写真の掲載については意向を確認し、個人情報の適切な管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中から、ご本人様が望まれていることを聴くようにしたり、何を伝えようかとされているのか気付けるように接し方を考えるようにしています。生活の様々な場面で、自己決定（選択）していただける機会の提供を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合にならないように、業務見直し等では慎重に検討しています。1日の基本的な日課はあるが、起床や朝食の時間は特に決めておらず、お一人おひとりのペースに合わせていただけるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理髪店に出かけてカットを楽しんでいただいたり、毛染めをしたりしている。職員と一緒に買い物に出かけ、好きな洋服を選んでいただいています。		

グループホームプラティア花園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のカットや盛り付け等ができる方に協力をしていただけるように声掛けして手伝っていただいています。職員もご利用者様と同じ食事を一緒にいただいて、楽しい食事時間になるようにしています。	委託業者から献立と食材の搬入を受け、各フロアで調理し、手作りの食事を提供している。利用者と共に、調理・盛り付け・配膳・下膳・後片付けなどを行い、職員も一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気です。献立に、季節感や行事食が採り入れられ、また、利用者の希望や状況に応じて、献立をアレンジして提供することもある。週1回、利用者の好みや希望を取り入れた自由メニューで、献立から調理まで事業所で行い、利用者と共に楽しむ機会がある。イベントとして外食レクも実施している。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を毎日しっかりとチェック表を利用して把握しています。また、摂取量が少なくなっている方には、食事形態の変更や好みに合わせて食事や飲料水等の提供をさせていただきます。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は、口腔内の汚れが誤嚥性肺炎を起こすことを理解して、毎食後、声かけをして歯磨きを促し磨き残しの確認や口腔ガーゼ等を使った口腔ケアを実施して清潔が保てるように努めています。必要時に歯科往診を利用いただいています。		
43	(16)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄状況やパターンを把握して、声かけや誘導を行っている。また、行動等の変化を見極めトイレでの排泄へ繋げています。お一人おひとりに合った排泄方法で対応。おむつに頼らないですむように、できる限り車いすの方も便座に座っていただいて排泄できるようにしています。	排泄チェック表で、排泄が自立している利用者も含め、個々の排泄パターンと排泄状況を把握し、日中は基本的には、トイレでの排泄を支援している。フロア会議で状況を確認し、現状に即した介助方法や排泄用品を検討し、安易に排泄用品に頼らない方針で支援している。トイレ誘導時の声かけ・ドアの開閉への留意、また、ドアの外で待機する等、羞恥心への配慮を周知している。	

グループホームプラティア花園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用して排便の確認をして、便秘にならないように努めています。食事前の体操や散歩等適度な運動をしたり、乳製品を提供することで、便秘改善を目指しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、ご本人様に確認をしてから入浴していただいています。便失禁とうがあれば、時間外でもシャワー浴等で対応しています。入浴が好きでない方には気持ちが動くように寄り添う対応やご家族様にも協力していただいで入浴していただいています。	入浴日は決めずに個人の希望に応じて対応し、基本的には週2～3回入浴できるように支援している。入浴拒否がある利用者には、声かけやタイミングを工夫し、家族の協力も得ながら、無理強いせず入浴できるように対応している。異性介助を嫌がる利用者には同性介助で対応している。利用者の状況に応じて、デイサービスの機械浴の使用も可能である。ゆず湯・入浴剤などで入浴が楽しめる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活リズムや体調に合わせて休息をしていただいています。日中、外気浴したり活動量を増やしたりして、夜間入眠しやすくなるように、努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師、薬剤師からの説明を受けて薬の確認や内容の把握を行っています。特に薬の変更があったときは、症状の変化やご様子に変化がないかをしっかりと見るようにしています。服薬ルールを設けて確認し合いながら服薬していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの思いを尊重して入居前と変わらない暮らしができるように、またできなくなったことが、職員と一緒にやることのできるようになる喜びを感じていただけるように配慮しています。レクリエーションの充実にも力をいれています。		

グループホームプラティア花園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	すべての希望に沿うことはできないが、スタッフは時間を見つけて散歩や買い物等に出かけるようにしています。個別の外出等は『寄り添い介護』を活用して個々の希望に沿った外出ができるように取り組んでいます。	気候や利用者の希望に応じて、事業所周辺の散歩や買物に出かけられるよう支援している。自治会から情報を受け、地域のイベントに参加できるように取り組んでいる。春の花見や外食など、フロア毎の外出の機会も設けている。また、個別の外出は寄り添い介護を利用して、思い出の場所・希望の場所に出かけられるように支援している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方には、ご家族様の了解をいただいて、ご自身で管理していただいています。また、ご希望によって、事務所で小口現金として預からせていただいて、外出時等にご自身で支払いをしていただけるようにしています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様で携帯電話を持たれている方もいらっしゃいます。ホームの電話をご本人様の希望により電話をしていただいています。ご家族様へ手紙を送るような支援は不十分なため、今後工夫をしながら改善していきます。		
52	(19)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔が保たれるようにしています。季節に合わせた飾りをご利用者様と一緒に作成して飾り付けをしています。ベランダでは、季節に合った花が楽しめるように、ご利用者様と一緒にお世話をしています。	自然光が差し込む共用空間は、ゆったりと広く清潔感が感じられる。テーブル席とソファを設置し、利用者が思い思いにくつろげる環境がある。共用空間の壁面には、利用者と一緒に制作した季節感のある作品が飾られ、居心地よく過ごせるように努めている。フロアのオープンキッチンから調理の香りや音が感じられ、家庭的な雰囲気が感じられる。ベランダを活用し、季節の花をプランターに植え楽しみ事になっている。	

グループホームプラティア花園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダやエレベーターホール等にテーブルやイスを置いて、ゆっくりとくつろげる空間が提供できるように心がけている。		
54	(20)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で暮らされていた時の使い慣れた家具や食器等をできるだけ持ち込んでいただけるようお願いしています。居室内にご自宅が再現できるようにご家族様に協力をいただいています。ご自身で作られた作品も飾らせていただいています。	居室には洗面台・クローゼットが設置されている。入居時に、机・テレビ・トールペイントの作品等、利用者が使い慣れた家具や馴染みの調度品を持ちこんでもらえるように支援している。クッション性のあるマットを敷いて転倒による事故予防をする等、安全面にも個別の配慮が行われている。居室前に写真を表示して部屋間違えの防止を行っている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等に目印となるような表示や写真等を取り付けています。また、能力に応じた福祉用具の利用について検討して導入もしています。		